

PFASによる汚染にも効果を発揮！

地下水汚染拡大防止技術が話題

エンバイオ・エンジニアリング

エンバイオ・エンジニアリングである。

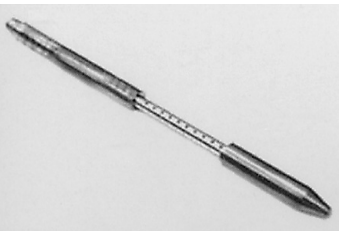
アリング（東京都千代田区鍛冶町二丁目二番〇三十五七七五五二八）は、九月十八日（二十日）まで東京ビッグサイトで開催された「地盤技術フォーラム」に、「地下水汚染拡大を防止する技術」などを紹介し、来場者の話題を呼んだ。

土壌や地下水の汚染の中でも最近問題視されているのがPFAS（有機フッ素化合物）による汚

染である。

PFASは使い勝手の良さから幅広い用途で使用されてきたが現在になって、難分解性、高蓄積性、長距離移動といった性質があることが判明し、規制やリスク管理に関する取り組みが進められている。

こうした中、当社では地下水汚染拡大防止技術を提供し

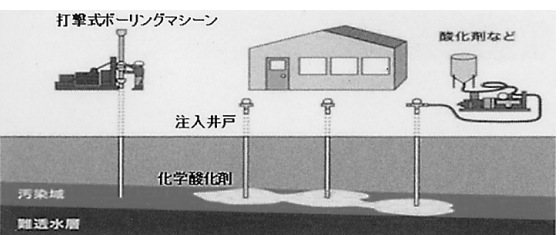


特定深度注入プローブ

ている。

海外でNo.1の評価を受け、多くの実績を持つ土壌地下水汚染調査・浄化用機器の輸入販売を行う当社が提供する技術はPFASやVOCs（揮発性有機化合物）による汚染の拡大防止を図ると共に汚染物質を吸着・浄化することが可能。調査から浄化に至るまで一貫で行っている。

地下水汚染の拡大を防止するために当社では、①化学酸化剤の注入による原位置浄化技術②コロイド状活性炭注入による透過性浄化壁の設置



多点同時注入工法による注入状況①と化学酸化剤注入のイメージ図②

の2つ技術を推奨している。ここで汚染の拡大を防止するというものである。

化学酸化剤注入による原位置浄化技術は、注入井戸よりCフェトンまたは過硫酸ソーダを注入井戸より注入し、汚染物質を吸着することで浄化を図るといふもの。注入は

化学酸化剤を高密度かつ同時に注入できる多地点同時注入工法で行う。コロイド状活性炭注入による透過性浄化壁技術は、コロイド状活性炭の「PlumeStop」を汚染された敷地の境界に特定深度注入プローブを用いて注入し、透過性

この2つの工法を組み合わせることにより、汚染被害の拡大の抑制効果を最大限にし、確実性を高めることができる。 <https://embio-corp.com>

